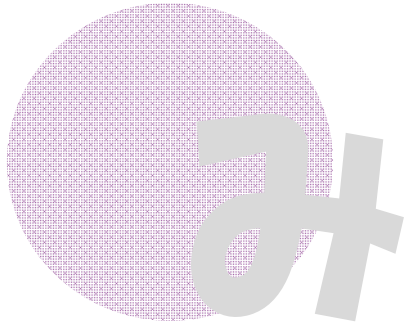
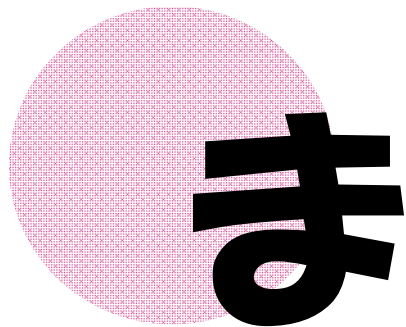




みんなで取り組む

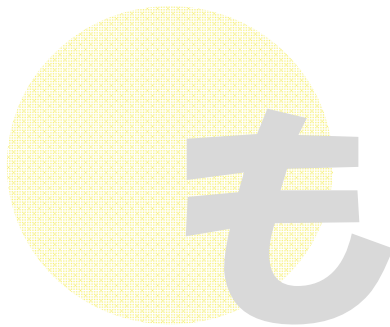
事故予防



ま確認！



睡眠中も保育中



もちろん配置！

水遊びには監視役



スクを減らす！

いつも観察 誤嚥予防

睡眠時安全マニュアル

睡眠は、脳の発達や気持ちの安定等、乳幼児の成長にとって重要な役割を担っています。

しかし、「平成 28 年教育・保育施設等における事故報告集計」（内閣府）によると、保育中の死亡事故の発生状況では、睡眠中（窒息、乳幼児突然死症候群[SIDS]*等）の割合が 77% となっており、年齢においては 0・1 歳児が 86% を占めています。

そのため、睡眠時も保育であり、乳幼児の安全を最優先するという認識を全職員（管理者・施設長・職員）が共有することが重要です。そして、事故防止対策の徹底を図るとともに、どのような状況であっても安全を最優先した判断を現場レベルで行い、事故発生時においても迅速な対応ができるよう、体制を整えておく必要があります。

※ 何の予兆や既往歴もないまま乳幼児が死に至る原因がわからない病気

1 睡眠中の見守りの重要性について

睡眠中が最も突然死等の危険性が高い！



『自園でも起こりうる』かも...

「こどもの安全を最優先とする」意識の徹底

・睡眠中も保育である

・睡眠中のリスクの共有

- うつぶせ寝
 - 窒息
 - 預かり初期 等
- のリスク

見守り(観察・記録)に専念できる体制づくり

- 睡眠中は必ず職員が在室
- こどもの異変に早く気づけることが重要
- 日々、保育体制の確認・調整が必要



保育準備の制作や会議等



こどもの安全

睡眠中の見守りに専念できる体制づくりについて

検討内容

(例：会議の時間を夕方に変更 ⇒ 職員間の伝達方法を見直す)

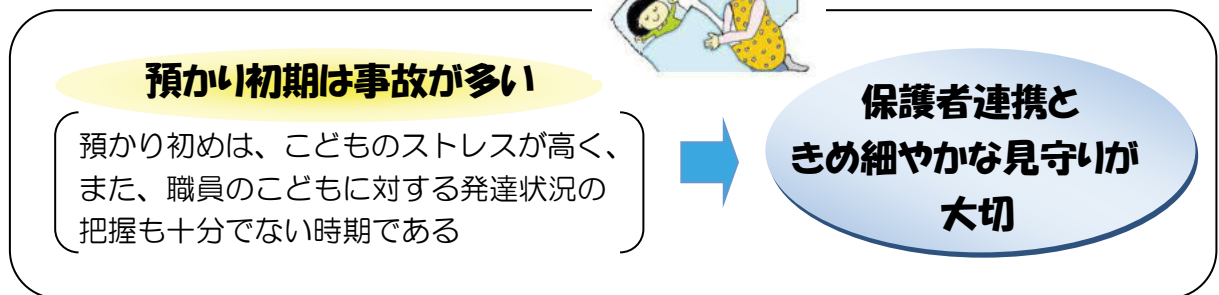
2 緊急時体制の整備

一刻を争う状況にも対応できるものにする

- ・心肺蘇生法、AED の操作等の研修の実施。（年に 1 回以上）
- ・緊急事態における 119 番通報や職員間の連絡体制（状況に応じた役割分担）等の確認 ⇒ シミュレーション研修の実施。

3 睡眠中のリスクと事故防止対策

(1) 入園時



○ 対応及び確認

- ・入園児の生育歴等を把握し、配慮事項がある場合は全職員で情報を共有する。
- ・預かり初期（特に初日）は、こどもの様子、健康状態（体温・食欲・排便等）をていねいに把握する。
- ・SIDS 対策普及啓発用ポスターを掲示したり、リーフレットを配付する。
 - ✚ 家庭においても「医学上の理由でうつぶせ寝を勧められている以外は 顔が見える仰向けに寝かせる」ことの重要性を伝える。
- ・慣らし保育の必要性を周知する。
 - ✚ 預かり初期のストレスを低減するためには、徐々に保育環境に慣れていくことが必要。
 - ✚ こどもの状態に応じた慣らし保育の重要性を、十分に保護者に説明し、理解を得る。



【参考文献】

- ・大阪市たんぽぽの国保育事故調査報告書
（平成 29 年 7 月）
- ・「教育・保育施設等における事故予防及び事故発生時の対応のためのガイドライン」
（平成 28 年 3 月 内閣府・文部科学省・厚生労働省 発出）
- ・保育現場の「深刻事故」対応ハンドブック
（平成 26 年 6 月 田中龍宏、寺町東子、栗並えみ、掛札愛美 共著）

(2) 睡眠時

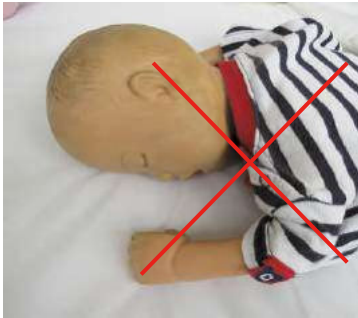
① 0 歳児、1 歳児はうつぶせ寝にはしない！

— 0、1 歳児は睡眠時の死亡事故が多い —

- ・ 寝かしつける時から仰向けにする。
- ・ うつぶせ寝を見つけたら、医学的な理由がある場合を除いて、こどもの状況をより把握しやすい仰向け寝にする。

うつぶせ寝とは…

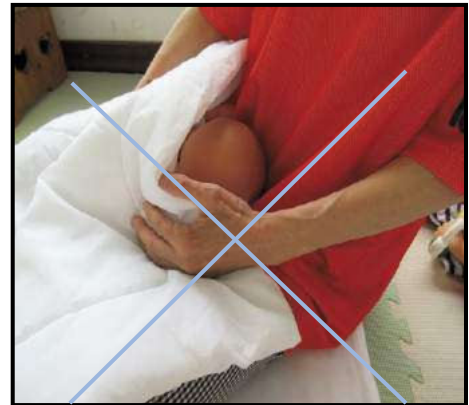
うつぶせ寝は、布団に身体の前面をうずめた状態で寝る姿勢のこと



顔が横に向いていても、腹部や胸部が下についていれば、うつぶせ寝である

※顔が斜め下方を向いていると窒息しやすくなる。(米国では、横向きも危険とされている) また、肺が大きくふくらむことができず、窒息死する可能性も示唆されている。

睡眠中の死亡リスクを下げるために
寝かしつけ時から仰向けにする



② 観察し記録する

- ・ 睡眠中の全身状態、特に呼吸状態の観察は重要！
- ・ タイマー等を活用し、0 歳児は 5 分ごと、1 歳児以上は 10 分ごとに観察を行う
- ・ 目視だけではなく、こどもの体に触れて全身状況を把握し、記録する

● 確認者による睡眠時のチェック・記録方法 (資料集 P 資 1～資 10)

- ☐ 顔・状況 (名前の確認・顔色・唇の色)
- ☐ 呼吸の有無 (呼吸音・胸の動き)
- ☐ 呼吸の様子 (咳・ゼーゼー・鼻づまり等)
- ☐ 熱感 (体に触れて体温・発汗等の確認)
- ☐ 体位 (医師の指示がない限りうつ伏せのとき ⇒ 仰向けにする
0・1 歳児：仰向けにしたことも記録しておく)
- ☐ 記録者の名前の記入

SIDS の呼吸停止時は非常に静かなことが多く、寝ているように見える。

— 要注意 —



● 預かり初期はきめ細やかな注意深い見守いを！

● いつもと様子が違う時は要注意！

- ・ 風邪症状がある等、普段と違う様子や体調がみられるこどもについては、職員のそばに寝かせて注意する。



③ 睡眠環境を整える

こどもの顔の周りや布団周辺に、窒息の原因となるヒモや口に入るおもちゃ等がないか、ミルクを吐いていないか、また、室内を温めすぎないように温度調整等、予め事故が起こりにくい外的環境を整えることが、事故防止につながる。

★ 睡眠時の部屋の様子を写真で撮り、みんなで見てみよう！

＜ 睡眠環境のポイント ＞

室内は顔色が十分確認できる明るさにする

- ・照明をつける
- ・カーテンは直射日光や寒さ防止のため等、必要な場合を除いて開けておく



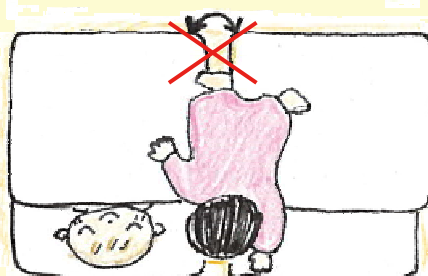
- ・よだれかけは、はずす
- ・周りにコードやヒモのようなものがないかを確認する

子どもが生活する高さ

口の中に
何もないか
確認する

適宜換気をする

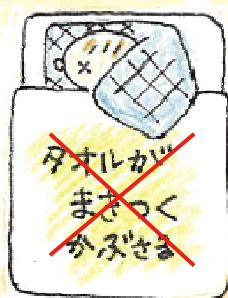
布団の間隔を広くあける または すき間なく詰める



すき間に顔が
埋まって呼吸
ができなくなる

うつぶせ

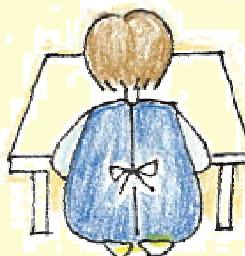
腹部や胸部が下についている状態



＜温度・湿度の目安＞

	温度	湿度
冬	20～23℃	約 60%
夏	26～28℃	約 60%

- ・室温湿度計はこどもが生活する高さに設置する（安全に留意しながら）
- ・冷房は床面の温度が2～3℃低い場合があるので、睡眠時は留意する

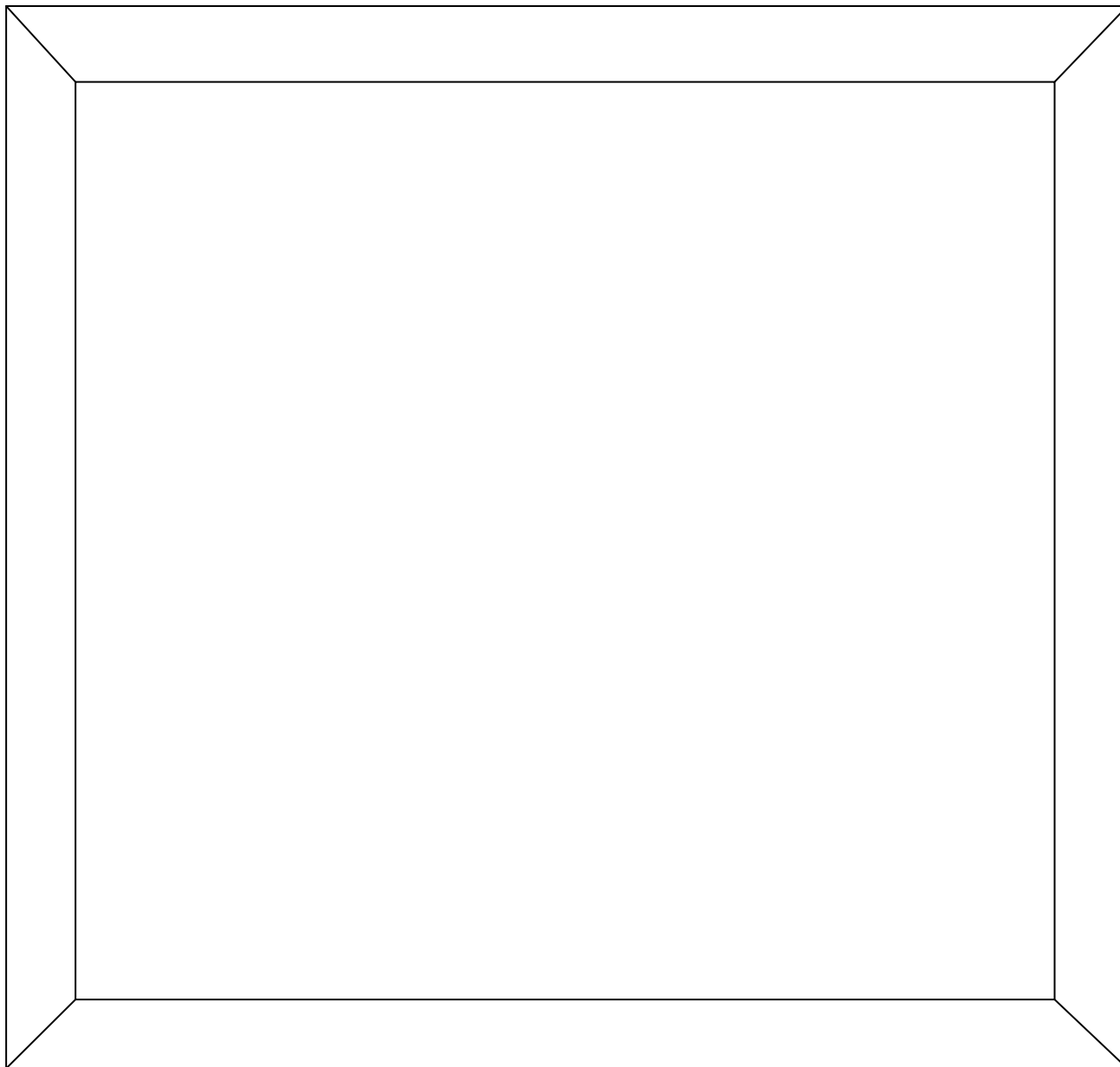


- ・敷布団は固めのものにする
- ・掛け布団は軽いものにする
- ・バスタオルは敷かない
- ・枕は使わない

睡眠中は床暖房やホットカーペットを使用しない（暖めすぎの防止）

安全な睡眠環境を考えよう！（保育室のレイアウト）

- ・安全な睡眠スペースか？（転倒や落下物等の危険の排除等）
- ・布団等の並べ方は？
- ・観察者の位置は？ 等



＜ 睡眠時のチェックポイント ＞



こども



環境



- ☐ 健康状態等いつもと違う様子はないか
- ☐ 水分補給はできているか
- ☐ 寝かしつける時から仰向けにしているか
- ☐ □の中に何も入っていないか
- ☐ おもちゃ等を持っていないか
- ☐ よだれかけははずしているか
- ☐ 枕は使っていないか
- ☐ 一つの布団に複数名で寝ていないか



- ☐ 顔色等が観察できる明るさか
- ☐ 周囲にぬいぐるみや「おもちゃ」「タオル」「コード等のヒモ状のもの」はないか
- ☐ 敷布団は固めのものか
- ☐ 掛け布団は軽いものか
- ☐ 敷布団の上にバスタオルは敷いていないか
- ☐ コットの上のパット等は固定されているか
- ☐ 布団の間隔は適当か 顔が埋まらないか
- ☐ 布団やコットは観察しやすく並んでいるか
- ☐ 部屋は暖めすぎているか
- ☐ 適宜換気をしているか

